

県立学校における対策（6／13～当面の間）

1 各教科等について

各教科等において以下のような「感染対策を講じてもなお感染リスクの高い学習活動」は慎重に検討すること。

- ・ 「児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」
- ・ 「近距離で一斉に大きな声を出す活動」
- ・ 音楽における「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダー等の管楽器演奏」
- ・ 家庭における「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」
- ・ 保健体育における「児童生徒が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」など

2 学校行事等について

(1) 健康安全・体育的行事（健康診断・避難訓練・運動会・球技大会等）の実施について

① 運動会等の実施に当たっては、密閉、密集、密接のそれぞれの密を避けるよう、実施内容や方法（例えば、来場者の制限や半日での開催など）の工夫をすること。なお、地域の感染状況等も踏まえて、必要に応じて中止や延期などについて検討すること。

また、児童生徒が密集する運動や、近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い運動については、地域の感染状況等を踏まえ、安全な実施が困難である場合は実施を見合わせるほか、開閉会式での児童生徒の整列、児童生徒による応援、保護者等の参観、児童生徒や保護者が昼食をとる場所等についても、一度に大人数が集まって人が密集しないような工夫をするとともに、保護者等に対しても、手洗いや咳エチケット等の基本的な感染症対策を徹底すること。

② 健康診断については、例えば、保健室への入退室について小グループごとにするなど、待ち時間が多くなるよう十分配慮すること。

③ 避難訓練や交通安全指導などについては、各教室で事前指導を十分に行い、時間をかけずに実施すること。

(2) 文化的行事（文化祭・学習発表会等）の実施について

① 文化祭等の実施に当たっては、運動会等と同様に、密閉、密集、密接のそれぞれの密を避けるよう、実施内容や方法（例えば、来場者の制限や期間の短縮など）の工夫をすること。各種準備や練習に関しては、一度に大人数が集まって人が密集しないよう工夫すること。なお、地域の感染状況等も踏まえて、必要に応じて中止や延期などについて検討すること。

(3) 旅行・集団宿泊的行事（遠足・修学旅行等）の実施について

① 遠足などのバス等による移動に際し、車内の換気に十分注意し、マスクを着用し、会話を控えめにすること。

② 修学旅行の実施に当たっては、修学旅行の目的地となる地域の感染状況、関係自治体の方針等をしっかり把握し、感染防止策の確実な実施や保護者などの意向を確認の上、適切に判断すること。その上で、当面の措置として一旦取り止める場合においても、中止ではなく延期扱いとしたり、感染状況を見極めながら、近距離での実施、旅行日程の変更や短縮など実施方法の適切な変更・工夫について検討したりするなどの配慮をすること。

なお、児童生徒や同居する家族等の健康観察も徹底した上で、家族等に発熱・体調不良者がいる児童生徒は、修学旅行への参加を取りやめてもらうなどの配慮をすること。

(4) 勤労生産・奉仕的行事（職場体験活動・地域清掃等）の実施について

① インターンシップ等の実施については、事前に受入先企業等との綿密な打合せを行い、実施時期や日数等を検討すること。また、地域の感染状況等を踏まえ、安全な実施が困難である場合は、実施を見合わせること。

② 校外活動について、一斉ではなく、グループに分かれて時期や場所をずらして実施すること。

(5) 儀式的行事（始業式・終業式・卒業式等）の実施について

① 儀式的行事を実施する際には、こまめな換気を実施する等の感染拡大防止のための措置をとったり、参加人数を抑えたり、式典全体の時間を短縮したりする等の開催方式の工夫を講じること。

(6) オープンキャンパス、会社説明会、受験等、生徒の進路に係る県外移動について

県をまたいだ移動となることから、参加の前後も含めて特に感染防止対策を徹底すること。

別添1「オープンキャンパス、会社説明会、受験等、生徒の進路に係る県外移動について」のとおり

3 部活動について

(1) 感染拡大防止対策のガイドラインの遵守

活動の際には、競技団体が定める競技の特性に応じた感染拡大防止対策のガイドラインを遵守すること。

(2) 各部活動の感染防止対策の点検等

校長は、別紙1「部活動における感染対策チェックリスト」を各部活動の顧問に作成させ、感染防止対策が遵守されているか次のとおり点検し、対策が不十分な部活動には、必要な指導を必ず行うこと。

① 対外試合（練習試合等を含む）に出場する部活動：試合の2週間前から、毎日点検

② ①以外：校長の判断により、活動の実態に応じて定期的に点検

また、部活動に参加する児童生徒に対して、感染防止対策の必要性等について注意喚起を行うこと。

(3) 活動日数

「運動部活動の指針（平成30年12月）」及び「青森県文化部活動の指針（令和元年8月）」に基づく日数とする。

(4) 対外試合

① 公式試合

青森県高等学校体育連盟、青森県高等学校野球連盟、青森県高等学校文化連盟、青森県中学校体育連盟及び青森県中学校文化連盟並びにこれらの団体の上位組織の団体が主催又は共催する大会、各競技団体（協会・連盟）が主催する大会については、事前に主催者が講じる新型コロナウイルス感染防止対策や会場となる地域（都道府県、市町村）の感染状況及び対応制限等を確認し、慎重に判断した上で参加可能とする。

② 公式試合以外

他校との試合（練習試合を含む。）については、交流校との飲食（顧問同士も含む。）や宿泊を伴わない範囲内で実施可能とする。

ただし、全国・東北大会に出場する選手又はチーム及び各競技団体等から強化指定等を受けた選手又はチームは、宿泊を伴う試合の実施を可能とする。

なお、実施に当たっては、交流校の所在する地域の感染状況等を事前に確認するとともに、その必要性を十分に検討し、必要最小限にとどめ、以下の事項を厳守すること。

- ・ 公式大会に準じた感染拡大防止対策を講じること。
- ・ 相手校との接触の機会を最小限にとどめること
- ・ プレー時以外は原則としてマスク着用し、大声をださないこと
- ・ バスを利用する際は、窓を開ける等により常時換気するとともに、移動時は私語や飲食せず、原則としてマスクを着用するなど、感染対策を徹底すること

【試合実施に当たっての留意事項】

① 一般的な事項

- ア 毎日こまめな健康チェックをし、本人や同居家族に風邪症状等（頭痛、のどの痛みや違和感、鼻のつまり、だるさ、味覚や嗅覚の異常、発熱、その他いつもと違う症状）が見られる場合は、参加しないこと。（簡易検査キット等で陰性の場合も、風邪症状等がある場合は参加しない。）
- イ 競技（運動）の合間や更衣室ではマスクを必ず着用すること。
- ウ プレー時以外は常にマスクを着用し、声援、指示など大声を出さないこと。
- エ 公共交通機関利用後やエレベーター等、不特定多数の人と共用する箇所に触れた場合は、すぐに手洗い又はアルコール消毒を行うこと。
- オ 更衣室等、換気の不十分な場所での長時間の滞在を避けること。
- カ 移動の際も含めて、マスクを外した状態で会話避けること。
- キ マスクを外す飲食の場面では、特に注意し、密閉、密集、密接のそれぞれの密を避けられるよう十分な距離を確保し、なるべく場所など工夫すること。
- ク 試合後2週間は、毎日検温し、健康観察を徹底することとし、体調不良の場合は、自宅で療養し、気にかかる症状等があれば、かかりつけ医^{*}に相談し、指示を仰ぐこと。
- ケ バスを利用する際は、窓を開ける等、常時換気するとともに、移動時は私語や飲食をせず、マスクを必ず着用するなど、感染対策を徹底する。
- コ 練習試合等では、相手校との接触の機会を最小限にとどめる。
※かかりつけ医がない、相談先がわからない場合は、県コールセンターに問い合わせること。

② 全国・東北大会に係る留意事項

別添2「部活動の全国・東北大会等参加に当たっての留意事項」のとおり

(5) 合宿

合宿（学校単独で行うものを含む。）は禁止する。

ただし、全国・東北大会に出場する選手又はチーム及び各競技団体等から強化指定等を受けた選手又はチームは、合宿を可能とする。また、スキー部等、練習場所が限られており合宿形式での練習が不可欠だと校長が認める場合も、実施可能とする。

なお、実施に当たっては、合宿を行う地域の感染状況等を事前に確認するとともに、その必要性を十分に検討し、必要最小限にとどめること。また、別添2「部活動の全国・東北大会等参加に当たっての留意事項」に基づき、万全の対策を講じること。

(6) 練習等活動時の留意事項

① 健康観察の徹底

毎日こまめな健康チェックをし、本人や同居家族に風邪症状等（頭痛、のどの痛みや違和感、鼻のつまり、だるさ、味覚や嗅覚の異常、発熱、その他いつもと違う症状）が見られる場合は、参加しないこと。

② 密集場面の回避

多くの人数が密集する場面で感染リスクが高まると言われていることから、更衣室等も含めて、人数制限を設けるなど密集しないようにするとともに、換気を徹底すること。

③ 場面の切り替わり時のリスク回避

練習メニューが変わる場面やミーティングの際に、生徒が密接しないよう距離をとり、大声を出さないこと。

④ 部活動に付随する場面での対策の徹底

部活動終了後に、車座になって飲み物を飲みながら会話したり、食事を行ったりした際に感染が広がることを防ぐため、部活動前後での集団での飲食は控えるとともに、人との接触を避ける観点から、部活動終了後は速やかな帰宅を促すこと。

4 外部人材の活用について

県内の人材に限り来校による直接の指導を実施可能とする。

ただし、教育活動上、県外の人材による指導が不可欠だと校長が判断する場合は、適切な対策（ワクチン接種の確認やPCR検査による陰性確認等）を講じた上で来校による直接の指導ができる。

外部人材を活用する場合に、外部人材、児童生徒ともにマスクを着用する、身体的距離を確保する、換気を徹底するなどの必要な対策を講じることができない場合は、映像配信やオンライン等により実施すること。

5 健康観察の徹底について

本人や同居家族に風邪症状等（頭痛、のどの痛みや違和感、鼻のつまり、だるさ、味覚や嗅覚の異常、発熱、その他いつもと違う症状）が見られる場合、児童生徒及び教職員が登校または出勤しないことを徹底すること。

6 学校外における文化・スポーツ団体での活動等について

軽微な場合でも平常時の体調と異なる場合は、参加しないこととし、参加する場合は、各自が感染防止対策の徹底に努めること。

7 その他

熱中症対策を優先し、マスクを着用しない場合は、身体的距離を確保する、話をしないなど感染対策を徹底すること。

オープンキャンパス、会社説明会、受験等、生徒の進路に係る県外移動について

【参加する前に】

緊急事態措置及びまん延防止等重点措置区域への往来については、感染対策に万全を期して行うこととし、オンライン等での参加が可能な場合は、参加方法を検討すること。

【参加する前までに】

- ① 厚生労働省新型コロナウイルス感染症接触アプリ「COCOA」を可能であればインストールし感染者が多い地域では必ず、起動させること。
- ② 旅行日程や宿泊先については、学校でも把握しておくこと。
※ 宿泊先については、可能な限り知人（兄弟等も含む）等の家は避け、ホテル等の個室とするよう助言すること。

【参加した際は】

感染リスクを下げるために

- ① マスク等を着用すること。
 - ② 公共交通機関利用後やエレベーター等不特定多数の人と共用する箇所に触れた場合は、すぐに手洗い又はアルコール消毒を行うこと。
 - ③ 換気の不十分な場所での長時間の滞在を避けること。
 - ④ 飲食の場合は、特に注意し、宿泊先の自室や、密閉、密集、密接のそれぞれの密を避けられる場所で飲食するなど工夫すること。
- ※ 熱中症対策を優先し、マスクを着用しない場合は、身体的距離を確保する、話をしないなど感染対策を徹底すること。

【帰ってきたら】

2週間は、毎日検温し、健康観察を徹底することとし、体調不良の場合は自宅で療養し、気にかかる症状等があれば、かかりつけ医または県コールセンター（0120-123-801）に、感染症患者と接触した等、心当たりがある場合は下記、受診・相談センターに相談し、指示を仰ぐこと。

▽受診・相談センター

保健所	電話番号	管轄市町村
東地方保健所	017-739-5421	平内町 今別町 蓬田村 外ヶ浜町
弘前保健所	0172-33-8521	弘前市 黒石市 平川市 西目屋村 藤崎町 大鰐町 田舎館村 板柳町
三戸地方保健所	0178-27-5111	三戸町 五戸町 田子町 南部町 階上町 新郷村 おいらせ町
五所川原保健所	0173-34-2108	五所川原市 つがる市 鱒ヶ沢町 深浦町 鶴田町 中泊町
上十三保健所	0176-22-3510	十和田市 三沢市 野辺地町 七戸町 六戸町 横浜町 東北町 六ヶ所村
むつ保健所	0175-31-1891	むつ市 大間町 東通村 風間浦村 佐井村
青森市保健所	017-765-5280	青森市
八戸市保健所	0178-38-0729	八戸市

部活動の全国・東北大会等参加に当たっての留意事項

全国・東北大会等への参加については、事前に会場となる地域（都道府県・市町村等）における感染状況及び対応制限等を確認の上、慎重に判断し、参加する場合は、ワクチン接種の有無にかかわらず、以下に基づき万全の感染防止対策を講じること。

1 全般に関すること

- (1) 参加に当たっては、部員の意志及び健康状態等に十分配慮するとともに、保護者の理解を十分得ること。また、主催者等の留意事項等に従うこと。
- (2) 最低でも現地入り2週間前から、現地を出て2週間後までは、顧問（指導者）及び部員の健康状態（起床直後の検温等）及び行動内容を主催者が作成するチェックシート等に記録し、主催者等からの求めがあった場合は、速やかに提出できるよう準備すること。なお、主催者からチェックシート等が示されていない場合は、健康チェックシート（様式1）を活用すること。
- (3) 顧問（指導者）は、部員の健康状態、行動内容を常に把握、管理するとともに、部員の同居家族や身近な知人に感染が疑われる者がいないか常に確認すること。
- (4) スマートフォン利用者については、原則として、厚生労働省の「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」をインストールの上、利用状態にし、常に携帯すること。（学校生活、競技実施等に支障がある場合は除く。）
- (5) 会場地移動前に感染疑い症状（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚異常等）が出現した場合、平素の活動を中止し、かかりつけ医又は県コールセンターに連絡し、受診方法等について指示を受けること。
- (6) 大会開催日の2週間前の時点若しくはそれ以降に感染疑い症状があった場合は、PCR検査等、医師による検査が陰性であっても、原則当該部員は参加を辞退すること。（インフルエンザ等の新型コロナウイルス以外の感染症のリスクもあるため。）ただし、次の条件を満たしている場合、大会への出場を認めても構わない。
 - 感染疑い症状の発症後に少なくとも8日が経過している。（発症日を0日とする。）
 - 薬剤を服用していない状態で、解熱後及び症状消失後に少なくとも72時間が経過している。
- (7) 大会開催日の2週間前の時点若しくはそれ以降に、PCR検査等、医師による検査で陽性反応があった場合は、保健所の指示に従うこと。
- (8) 保健所から濃厚接触者と認められた場合、2週間にわたる健康状態を観察する期間（感染者と最後に接触した日の翌日から起算）を経過し、症状が出ていない部員の出場は認めても構わない。

2 大会期間中に関すること

<宿 舎>

- (1) 感染拡大防止に向けた積極的な取組を実施している宿舎を利用すること。
- (2) ホテル宿舎は一人部屋が望ましいが、困難な場合は、極力少人数の部屋割りとなるよう配慮すること。複数人での利用の場合、室内では常時マスクを着用することが望ましい。
- (3) 部屋の換気をよくするとともに、推奨されている室内湿度である50～60%に保つよう心がけること。
- (4) 食事の際には部員が一堂に集まるのではなく、時間差を付けて、距離（できるだけ2m、最低1m）を空けられるようにし、必要以上の会話は控えること。また、食事後は速やかにマスクを着用すること。可能であれば自室での食事が望ましい。
- (5) 共用スペース（ロビー等）の利用は必要最低限とし、人数制限など宿舎からの指示等に従うこと。
- (6) 共同浴場は可能な限り利用しないこと。共同浴場を利用する場合は、個々の利用時間を短くし、速やかに退室するよう心がけること。（特に脱衣所）

- (7) ミーティング等は、ビデオ会議（オンラインミーティング）を活用し、部員らの接触を極力避けること。対面で実施する場合はマスクを着用するとともに、部屋の広さ（参加者間ができるだけ2m、最低1m）や換気に留意すること。
- (8) 感染疑い症状を訴える者が出た場合は、即座に個室に隔離するとともに、会場地コールセンターに連絡し、受診方法等について指示を受けること。

<移動>

- (9) 宿舎出発前に検温し、主催者が作成するチェックシートに記録すること。なお、主催者からチェックシートが示されていない場合は、健康チェックシート（様式1）を活用すること。
- (10) チーム専用の移動手段を手配することが望ましい。公共交通機関を利用する場合は、可能な限りまとまって乗車・搭乗し、一般客との接触を避けること。
- (11) 移動の際は、チーム専用の移動手段、公共交通機関にかかわらず、マスク着用、手指衛生を徹底し、必要以上の会話や飲食は避けること。

<会場>

- (12) こまめな手洗い等による手指衛生の徹底を図ること。
- (13) 会場内での移動や待機時は、マスクを着用すること。
- (14) 更衣室、待機場所等では、運営者の指示等に従うとともに、原則マスクを着用し不要な会話・接触及び飲食は控えること。
- (15) 観戦する場合は運営者の指示等に従うとともに、声援やかけ声は、極力控えること。

<競技中等>

- (16) 素手でのハイタッチや握手等は控えること。また、円陣を行う際の声出しは、可能な限り部員同士の間隔を取り、最短時間で済ませること。
- (17) 競技中等のコミュニケーションのための声かけ、発声については妨げないが、プレー中断時等は、相手との距離や飛沫を考慮し、一定程度の距離を保つことや、向き合わないなどの工夫をすること。
- (18) 手指衛生に努めるとともに、共用物品の使用は可能な限り控え、共用物品については可能な限り消毒を行うこと。
- (19) 交代部員等が控える場所では、可能な限りマスクを着用するとともに、部員等の間隔を取り、接触を避けること。
- (20) 顧問（指導者）からの指示等の際は、マスクを着用するとともに、部員との距離（できるだけ2m、最低1m）を意識すること。

3 大会終了後に関すること

- (1) 会場又は宿舎出発前に感染疑い症状がないか確認すること。
- (2) 帰宅（又は準ずる拠点到着）時に検温すること。
- (3) 万一、新型コロナウイルス感染者となった場合は、医療機関、保健所等の指示に従うとともに、主催者等に速やかに報告すること。

<参考資料>

- 「国民体育大会開催における新型コロナウイルス感染拡大防止に関する基本方針」
公益財団法人日本スポーツ協会 第3版 2021/10/26
- 「中学生・高校生等を対象とした全国大会・コンクール等における感染拡大予防ガイドライン」
スポーツ庁・文化庁 2021/6/2
- 「高校生のスポーツ大会における新型コロナウイルス感染症のクラスター発生防止に関する提案」
国立感染症研究所実地疫学研究センター 2021/9/3

4 その他

熱中症対策を優先し、マスクを着用しない場合は、身体的距離を確保する、話をしないなど感染対策を徹底すること。